

Indeed、「転職」に関する5カ国（日・米・英・独・韓）比較調査を実施

転職したい理由は、日本と4カ国で差があり。

「不満はないが自分にとってプラスになる」が理由の4カ国に対し、

「職場に不満や嫌なことがある」が多い日本。

一方で、転職への期待は3人に1人が「やりがい」をあげ、日本でも前向きな転職に向けた兆しあり。

世界 No.1 求人検索エンジン* 「Indeed（インディード）」の日本法人である Indeed Japan 株式会社（本社：東京都港区、代表取締役：大八木 紘之、<https://jp.indeed.com> 以下 Indeed）は、5カ国（日本、アメリカ、イギリス、ドイツ、韓国）において、現在就業中の20～50代の正社員（無期雇用/フルタイム就業者）男女計8,848名を対象に、「転職」に関する意識調査を実施しました。

その結果、日本の特徴として「仕事よりもプライベートを優先する」仕事観や、転職理由は「自分にとってプラスになる」よりも「現状の職場に不満」が多い傾向、キャリア形成にかかるお金の少なさなど、他国と異なる傾向が見えてきました。一方で、他国と共通することとして、転職にポジティブなイメージを持っていること、転職には「仕事へのやりがいを感ずきたい」など前向きな期待をしていることなどがありました。実際に日本の転職経験者の8割以上が転職して良かったことを実感していました。

■ 調査実施の背景

内閣府が2023年6月に公表した「新しい資本主義」の実行計画案においては、日本経済の好循環に向けて賃金上昇を伴う成長産業への労働移動や雇用の流動化に重点が置かれており、社会的に転職への関心が高まっています。また少子高齢化やコロナ禍、DX化など社会環境の変化を背景に、労働市場では人材不足がますます進んでおり、それによって転職時の賃金が上昇傾向であることも、就業者の転職への意識向上を後押ししていると考えられます。一方で、新卒一括採用、年功序列、終身雇用という日本型雇用が定着している日本では、新卒で入社した会社で定年まで勤め上げる人も多く、他の先進国と比較して転職する人の割合が低い状況にあります。

雇用システムや制度、労働環境、社会環境が異なる国の間では、働く人々の仕事観、転職やキャリア形成への意識や価値観も異なると考えられます。Indeedは、日本と他国とで、就業者における仕事や転職に対する意識や価値観を比較することで、日本の就業者が客観的に日本の労働市場を捉えることにつながり、ひいては自身のキャリアを前向きに考えたり、新たな仕事や働き方に目を向けたりするきっかけになるのではないかと考えました。

本調査では、各種公的データを参照し、OECD加盟国のうち雇用システムが異なると考えられる日本を含む5カ国（日本、アメリカ、イギリス、ドイツ、韓国）を選定、現在就業中の20～50代の男女計8,848名（日本4,368名、アメリカ1,600名、イギリス・ドイツ・韓国各960名）を対象に、仕事観や転職への意識、キャリア形成^{※1}などについて調査を行いました。

Indeedは「We help people get jobs.」をミッションに掲げ、あらゆる人々が公平に自分にあった仕事を得られる社会の実現を目指しています。今回の調査結果を通じて、求職者が新たな仕事やキャリアの可能性に気づき、前向きに考えたり、行動を進めるきっかけになればと考えています。

※1: 本プレスリリース内におけるキャリア形成は、職業を軸とした人生設計のことを指しています。

■ 調査結果要約

- 【仕事観】4人中3人が「仕事よりもプライベート優先」の日本、他の4ヵ国と仕事観に大きな差。**

日本は4人中3人が「仕事よりもプライベート優先」「仕事はあくまでお金を稼ぐため」と回答し、5ヵ国中1位。「仕事で、昇進・昇格したい」はドイツが79.7%で最も高く、アメリカ・イギリス・韓国でも7割前後である一方、日本は46.4%で最下位。
- 【勤務先への満足度】日本は「満足」している人はわずか約4割。アメリカは8割超で日本の2倍以上、他4ヵ国も7割以上が「満足」で、日本の勤務先に対する満足度の低さが浮き彫りに。**

「満足／とても満足」が日本は41.5%にとどまるが、アメリカは85.2%と日本の2倍以上高く、イギリス79.6%、ドイツ77.3%、韓国70.2%といずれの国も日本と大きな差がある。日本の勤務先に対する満足度が顕著に低いことが明らかに。
- 【転職経験】日本の転職経験率は6割以下。イギリス・アメリカは9割以上が経験あり、日本は最下位。**

日本は転職未経験者の割合が40.3%。転職経験率は、日本59.7%に対し、イギリスは92.7%、アメリカは90.1%、ドイツは84.2%、韓国は75.8%で日本は最下位。改めて日本の転職経験者の少なさが明らかに。
- 【転職へのイメージ】日本は「新しいことにチャレンジできる」が1位、次いで「職場環境を変えられる」「スキルアップできる」など転職へのイメージは他4ヵ国と共通してポジティブ。**

日本では「新しいことにチャレンジできる」(36.6%)が1位、次いで「職場環境を変えられる」(36.1%)、「自身のスキルアップや経験を積むことができる」(34.7%)と、転職に前向きなイメージを持っている人が多い。転職にポジティブなイメージを持っているのは5ヵ国共通。
- 【転職したい理由・転職への期待】転職したい理由、4ヵ国は「不満はないが、自分にとってプラスになる」に対し、日本は「職場に不満や嫌なことがある」が多い傾向。一方、日本でも、転職には「やりがいを感じたい」といった前向きな期待を持つ人も多い。**

日本は「現状の職場に不満や嫌なことがある」(40.9%)が転職理由になりやすい傾向。他国はいずれも「現状の仕事に大きな不満はないが、自分にとってプラスになる可能性がある」が45%以上を占める結果に。一方、日本でも転職に前向きな期待を寄せる人は多く、3人に1人以上(34.9%)が「やりがいを感じたい」と回答。
- 【転職しない理由】日本は「転職したい会社・仕事が見つからない」、他国は「転職するほどの不満がない」が上位。アメリカは他国より「迷惑をかける」「同僚に悪い/別れたくない」の割合が高く、職場への愛着や仲間意識が強い傾向。**

「安定した給料がある」が5ヵ国共通で1位。次いで日本は「転職したい会社・仕事が見つからない」(27.8%)、アメリカ・イギリス・ドイツは「転職する程の不満がない」がそれぞれ2位。アメリカでは「今の仕事が停滞したり迷惑をかけることが心配」「今の会社の同僚に悪い/同僚と別れたくない」も上位に入り、職場への愛着や仲間意識が見て取れる。
- 【転職時に求める給与】日本は4人中3人が「現状維持の給与でも応募」で他国よりも高い割合。給与が1割程度減少しても応募する人が4割以上おりアメリカの約1.5倍。日本は転職時の給与減少に対する抵抗感が小さい傾向。**

日本で「今の給与と概ね同程度の求人」であれば応募してもよい・したいと思える割合は74.6%。また「今の給与より1割程度低い求人」でも応募する割合は42.8%と、それぞれ5ヵ国で最も割合が高く、転職時に給与が上がらない、もしくは減ることに対する抵抗が小さい。
- 【転職して良かったこと】日本は「プライベートの時間が取りやすい」が1位。「給与があがった」は5ヵ国共通で上位。**

日本では転職経験者の8割以上が何らかの転職によるメリットを感じており、「プライベートの時間が取りやすい」(33.9%)が1位で、5ヵ国中でも割合は最も多い。「仕事よりプライベート優先」の日本の仕事観の表れが見て取れる。一方、5ヵ国共通で「給与が良い/あがった」が上位となり日本では32.1%で2位、他国は34%以上の割合で1位。

9. 【キャリア形成に関する習慣】キャリア形成のためにかけるお金は、日本は半数以上が月に「0円」で、月収に占める割合は5ヵ国中最下位。最もお金をかける韓国は月収に占める割合が日本の3倍。

キャリア形成のためにかける金額は、日本では1ヶ月あたり平均7,479円で、半数以上が「0円」と回答。月収に占める割合は1.6%と5ヵ国中最下位。最も割合が大きかったのは韓国の4.8%で日本の3倍、日本円で換算すると平均31,946円。日本ではキャリア形成に向けた自己投資が低い傾向にあることが明らかに。

■ Indeed Japan 株式会社 マーケティング本部 シニアディレクター 田尻 祥一コメント

日本の経済成長および個人の働き方やキャリア構築の面でも、適切な賃金上昇を伴う労働移動は重要であると考えられますが、日本は他の先進国と比較しても転職する正社員の割合が少ない状況にあります。実際に今回の調査でも、日本の正社員の転職経験割合は5ヵ国中最下位で、約4割が転職経験がないことが明らかとなりました。イギリス、米国では正社員の9割以上が転職経験があることから、日本の転職割合は低いことが改めて示唆されました。

転職理由をみると、他の4ヵ国は「不満はないが自分にとってプラスになる」が多い傾向であるのに対し、日本では「職場への不満や嫌なことがある」が多いことが明らかになりました。日本では「今ある不満を解消する」ための手段として転職が行われている傾向にあり、自らキャリア形成を意識し、希望する未来のための選択肢として転職をする人がまだ少ない状況にありそうです。

それには、日本型雇用が大きく影響していると考えられます。アメリカをはじめジョブ型雇用をベースに自身で自律的にキャリアを描き、転職によって柔軟に自分に合った働き方や仕事を選択していく習慣が根付いている国と、長らく終身雇用の慣習が続いてきた日本とでは社会構造上の違いがあると言えます。

しかし一方で、日本人が転職に期待することは「給与」に次いで、「やりがいを感じたい」が2位になりました。また、転職に対するイメージも「新しいことにチャレンジできる」、「スキルアップや経験を積むことができる」など、前向きな回答が上位を占めました。

現状の転職理由としては職場への不満が多い一方で、これからの転職に対する期待としては、自分の仕事や働き方の新たな選択肢やキャリアの可能性が広がると前向きに捉えている人も多いと考えられます。

人々の仕事に対する価値観やライフスタイルが多様化する中、今後、新たな仕事や働き方、人生を見つけるために転職を選択する人も増えてくるでしょう。

Indeedはそうした方々に、“求人検索エンジン”としてだけでなく、“人生や働き方を見つける場”としてIndeedを活用いただくと共に、「いい未来は探せる」というメッセージを届けていきたいと考えています。



Indeed Japan 株式会社
マーケティング本部 シニアディレクター 田尻 祥一

2004年にアクセンチュア株式会社に入社。国内外の様々な経営戦略・事業改革プロジェクトに従事。2009年にデル・テクノロジーズ株式会社に入社。アジア太平洋地域における営業企画や日本法人経営企画室室長を歴任。2013年からマーケティング統括本部にて本部長としてB2B及びB2C向けマーケティングを統括。2022年Indeed Japan株式会社のマーケティング本部のシニアディレクターに就任。

■ 調査結果詳細

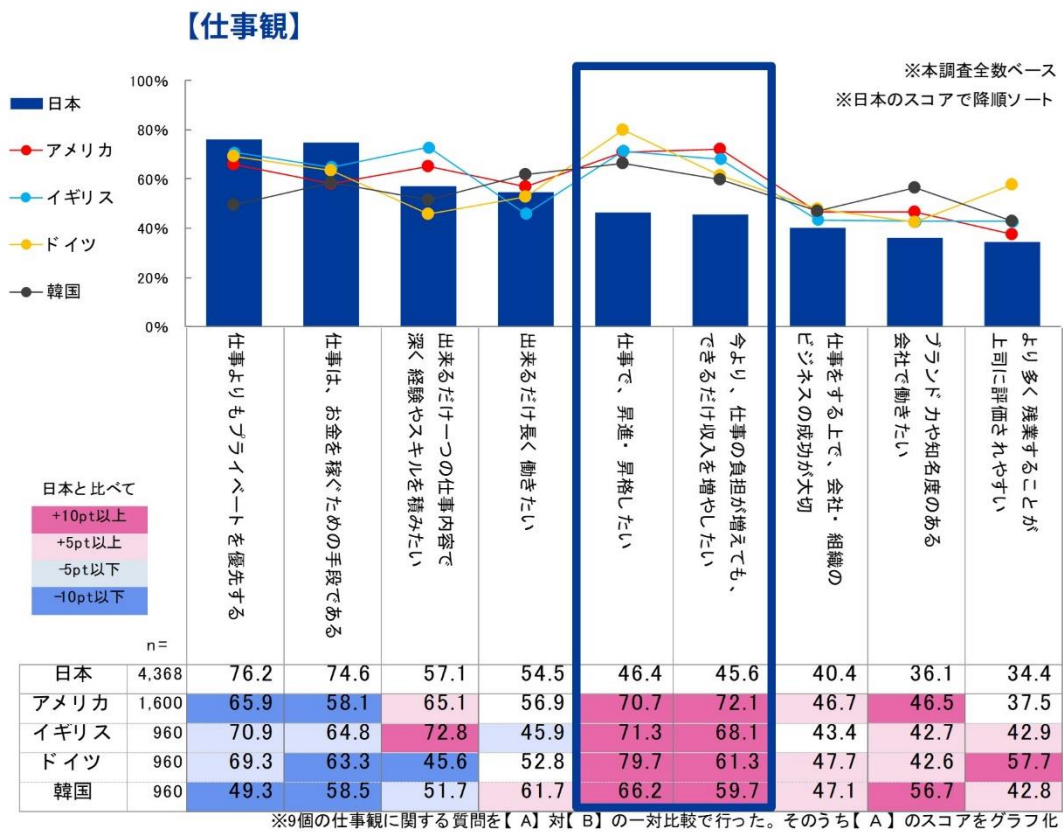
1. 【仕事観】4人中3人が「仕事よりもプライベート優先」の日本、他の4カ国と仕事観に大きな差。

5カ国を対象に、仕事観をたずねました。その結果、日本では「仕事よりもプライベートを優先する」が76.2%、「仕事は、お金を稼ぐための手段である」が74.6%で、どちらも5カ国の中で最も高い割合となりました。

「仕事で、昇進・昇格したい」はドイツが79.7%で最も高く、アメリカ・イギリス・韓国でも7割前後の割合となりましたが、日本は46.4%で最下位でした。また「今より仕事の負担が増えても、できるだけ収入を増やしたい」はアメリカが72.1%で最も高く、イギリス・ドイツ・韓国でも6~7割でしたが、日本は45.6%で最下位でした。

日本は“仕事よりもプライベートが優先で、仕事はあくまでもお金を稼ぐため”という価値観を持つ人の割合が高いと言えます。一方で、他の国では“仕事での昇進意欲があり、仕事の負担が増えてもできるだけ収入を増やしたい”という人が多い傾向が見られました。

Q.仕事に関して、あなたは【A】 【B】のどちらのお考えに近いですか。（それぞれ1つずつ選択）



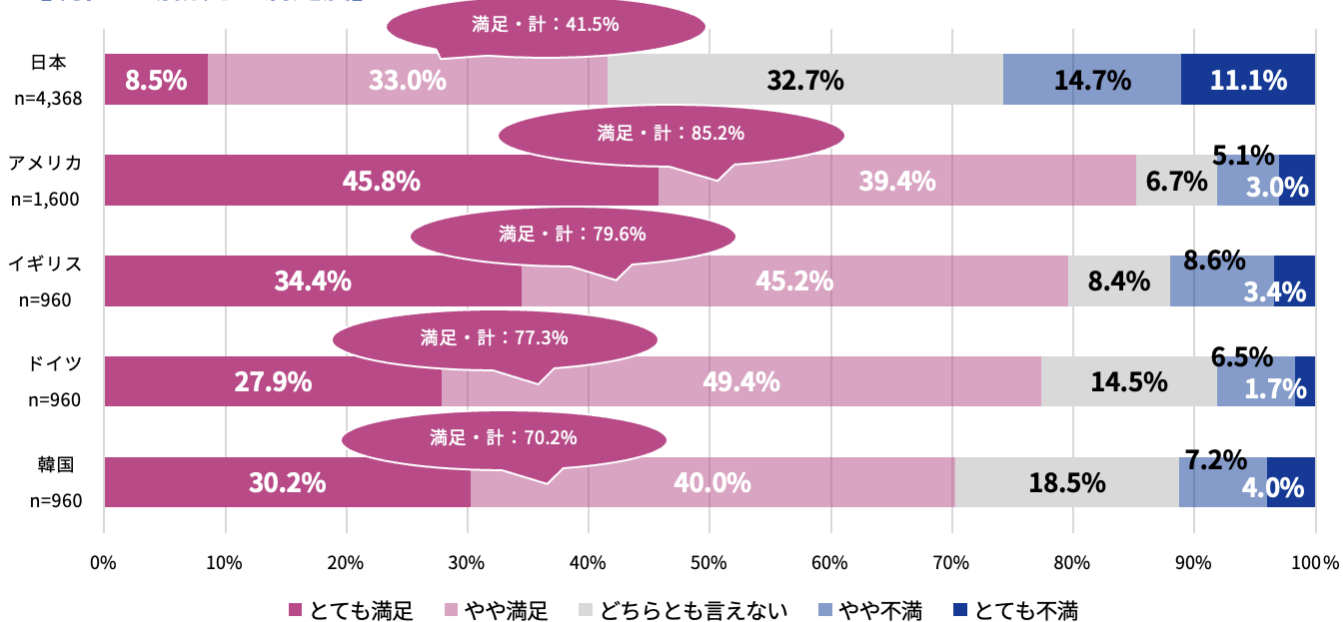
2. 【勤務先への満足度】日本は「満足」している人はわずか約4割。アメリカは8割超で日本の2倍以上、他4カ国も7割以上が「満足」で、日本の勤務先に対する満足度の低さが浮き彫りに。

現在の勤務先についての満足度をたずねました。「満足」と答えた割合（「とても満足」と「満足」の合計）は、日本は41.5%にとどまりました。アメリカは日本の2倍以上の85.2%、イギリス・ドイツ・韓国も70%以上の高い割合となり、日本では勤務先に対する満足度が顕著に低いことが明らかになりました。

Q. あなたは現在の勤務先にどの程度満足していますか（単数回答）。

※本調査全数ベース

【現在の勤務先の満足度】



3. 【転職経験】日本の転職経験率は6割以下。イギリス・アメリカは9割以上が経験あり、日本は最下位。

正社員の転職経験率を調べました。日本の転職経験率は59.7%で、転職未経験者の割合が40.3%を占めました。他国の転職経験者の割合はイギリスが92.7%、アメリカは90.1%、ドイツは84.2%と欧米では8割以上となりました。また韓国も75.8%が転職経験があり、日本よりも16.1ポイント高い結果となりました。日本の転職割合は他の4カ国と比べて大きく低く、最下位の結果でした。

Q. あなたはこれまでに、何回転職したことがありますか。

パートタイムは除き、正社員への転職回数のみお答えください（単数回答）。

※本調査全数ベース

※海外では「正社員」に変わって、下記の雇用形態の名称を使用

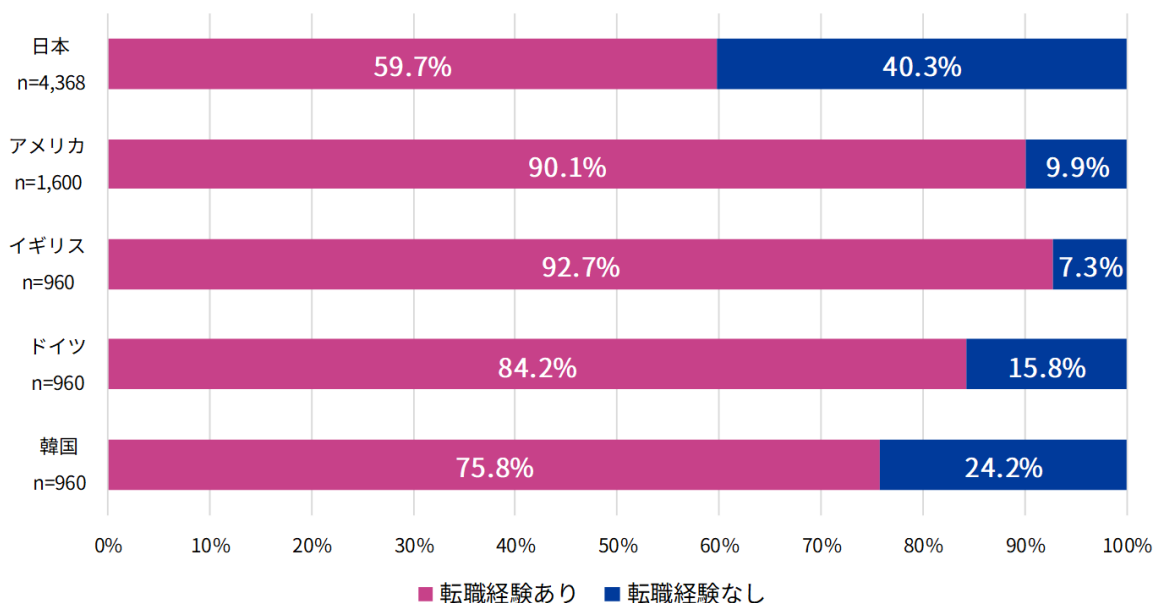
アメリカ：Full-time employee

イギリス：Full-time permanent employee

ドイツ：Full-time permanent employee（ドイツ語で表記）

韓国：Full-time permanent employee（韓国語で表記）

【転職経験率】



※1回以上転職経験のある人を「転職経験あり」、1度もない人を「転職経験なし」としている

4. 【転職へのイメージ】日本は「新しいことにチャレンジできる」が1位、次いで「職場環境を変えられる」「スキルアップできる」など転職へのイメージは他4カ国と共通してポジティブ。

転職についてのイメージをたずねると、日本では「新しいことにチャレンジできる」(36.6%)が1位、次いで「職場環境を変えられる」(36.1%)、「自身のスキルアップや経験を積むことができる」(34.7%)と、転職に前向きなイメージを持っている人が多い様子が明らかとなりました。これは、他4カ国でも同様で、5カ国共通でポジティブなイメージが上位にきました。

他の国と異なる特徴としては、「給与を良くすることができる」というイメージの順位が低いことです。アメリカ・イギリス・韓国では「給与を良くすることができる」イメージが1位、ドイツでも2位であったのに対し、日本では4位の結果でした。日本では転職によって給与が良くなるイメージがあまり持てない現状なのだと考えられます。今後、「新しい資本主義」の実行計画案にある、賃金上昇を伴う成長産業への労働移動や雇用の流動化が進んでいくと、この傾向が変わっていくかもしれません。

Q. あなたは、転職についてどのようなイメージがありますか（順位回答：5位まで）。

※本調査全数ベース
※日本のスコアで降順ソート

【転職のイメージ】

	ポジティブなイメージ					ネガティブなイメージ				
	日本 n=4,368	アメリカ n=1,600	イギリス n=960	ドイツ n=960	韓国 n=960	日本 n=4,368	アメリカ n=1,600	イギリス n=960	ドイツ n=960	韓国 n=960
転職で、新しいことにチャレンジできる	36.6	31.0	37.3	35.6	37.3	10.8	11.8	10.2	11.2	10.9
転職で、職場環境を変えられる	36.1	30.3	30.5	30.3	37.0	6.5	11.4	9.5	12.6	12.4
転職で、自身のスキルアップや経験を積むことができる	34.7	34.4	37.8	39.9	39.0	6.5	11.0	10.5	12.2	12.5
転職で、給与が上がりやすい/良くすることができる	34.6	38.4	40.6	37.9	44.9	6.0	9.6	7.0	10.8	9.0
転職で、職場の人間関係を変えられる	30.0	25.4	27.8	27.7	25.7	4.7	8.8	7.0	8.9	10.9
転職で、やりがいのある仕事ができる	27.6	28.5	30.8	33.7	28.1	4.4	7.5	7.7	9.7	8.2
転職で、人脈を広げられる	23.0	29.1	28.6	29.5	26.7	4.4	7.5	7.7	9.7	8.2
転職で、柔軟な働き方ができる	22.0	27.9	28.9	26.1	25.0	4.4	7.5	7.7	9.7	8.2
転職で、自分の個性を発揮しやすくなる	20.7	23.1	20.4	24.5	23.4	4.4	7.5	7.7	9.7	8.2
転職すると、職場環境が合うか不安	18.8	14.2	13.6	14.9	17.7	4.4	7.5	7.7	9.7	8.2
転職すると、新しい仕事が合うか不安	18.1	14.3	14.8	15.1	17.6	4.4	7.5	7.7	9.7	8.2
転職すると、職場の人間関係が合うか不安	16.6	11.5	11.6	13.4	16.3	4.4	7.5	7.7	9.7	8.2
転職で、昇進、昇格がしやすくなる	16.3	27.2	24.6	24.3	26.3	4.4	7.5	7.7	9.7	8.2
転職で、経歴を良くすることができる	15.9	32.7	33.8	26.4	32.9	4.4	7.5	7.7	9.7	8.2
転職すると、働き方が合うか不安	15.8	12.8	11.7	12.0	17.0	4.4	7.5	7.7	9.7	8.2
転職すると、給与が上がりにくい/悪くなりやすい	10.8	11.8	10.2	11.2	10.9	4.4	7.5	7.7	9.7	8.2
転職すると、人間関係の構築が苦手な人材と思われる恐れがある	6.5	11.4	9.5	12.6	12.4	4.4	7.5	7.7	9.7	8.2
転職すると、責任感・忍耐力がない人材と思われる恐れがある	6.5	11.0	10.5	12.2	12.5	4.4	7.5	7.7	9.7	8.2
転職すると、昇進、昇格がしづらくなる	6.0	9.6	7.0	10.8	9.0	4.4	7.5	7.7	9.7	8.2
転職すると、経歴に傷がつきやすい	4.7	8.8	7.0	8.9	10.9	4.4	7.5	7.7	9.7	8.2
転職すると、人脈を築きにくくなる	4.4	7.5	7.7	9.7	8.2	4.4	7.5	7.7	9.7	8.2
特になし/あてはまるものはない	13.6	9.8	9.8	6.8	2.7	4.4	7.5	7.7	9.7	8.2

※順位回答における1位～5位のスコアを合算して集計

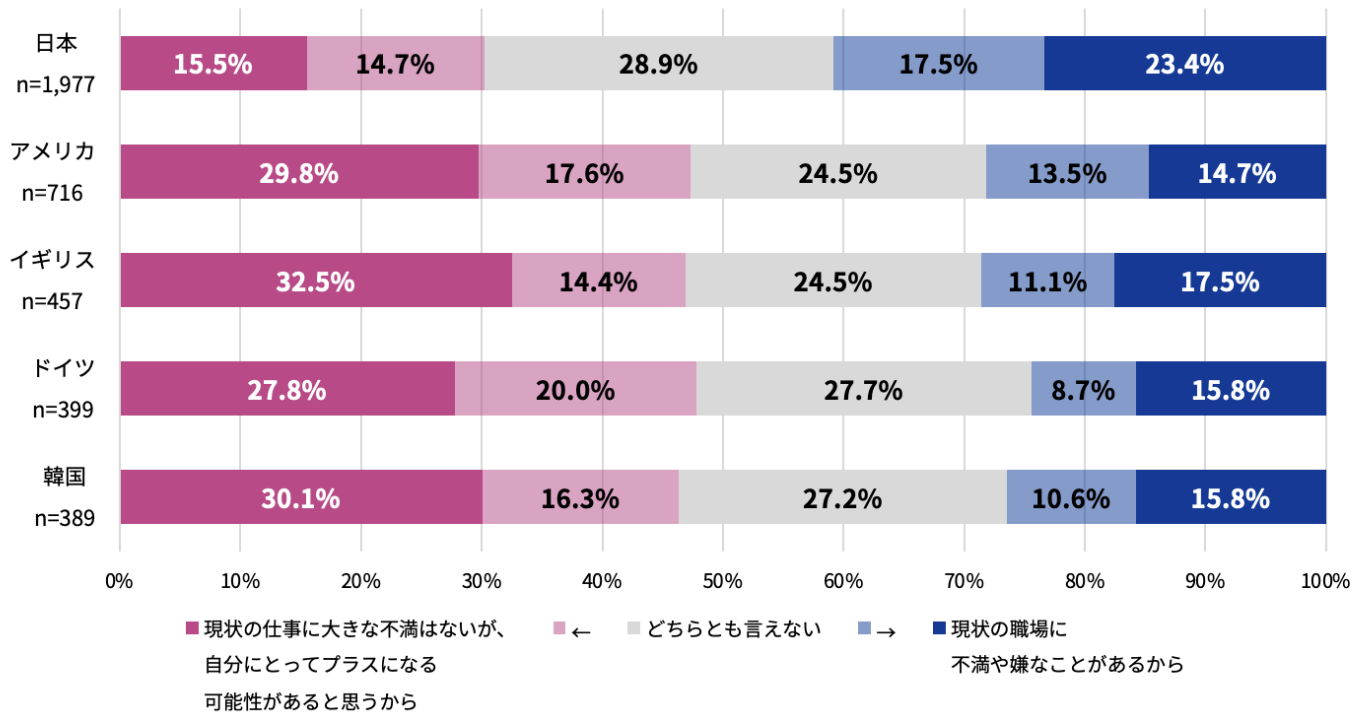
5. 【転職したい理由・転職への期待】転職したい理由、4カ国は「不満はないが、自分にとってプラスになる」に対し、日本は「職場に不満や嫌なことがある」が多い傾向。一方、日本でも、転職には「やりがいを感じたい」といった前向きな期待を持つ人も多い。

転職をしたい（検討している）人を対象に、その理由について「現状の仕事に大きな不満はないが、自分にとってプラスになる可能性があると思うから」と「現状の職場に不満や嫌なことがあるから」いずれかをたずねたところ、日本は「不満や嫌なことがある」が40.9%で他4カ国よりも突出して多く、「自分にとってプラスになる」は30.2%にとどまりました。日本は現在の職場における不満が転職理由になりやすい傾向が明らかになりました。一方、他国はいずれも「自分にとってプラスになる」が45%以上を占め、「不満や嫌なことがある」は30%以下となり、日本とは真逆の傾向となりました。

Q. あなたが、転職したい（検討している）のはなぜですか（単数回答）。

※転職検討者ベース

【転職したい理由】



一方で、転職に期待することをたずねると、日本は「給与を良くしたい」52.8%に次いで、「やりがいを感じたい」34.9%が2位の結果でした。3人に1人は転職によって「やりがい」への期待を寄せている様子が明らかとなり、現時点での実態として、「不満」などネガティブな要素を理由に転職している（検討している）人が多いものの、これからの転職への期待値は前向きな想いを抱いている人も多い様子が見られました。

Q. あなたが、転職に期待することは何ですか（順位回答：6位まで）。

※転職検討者ベース

※n=1,977

【転職に期待すること（日本）】

1位	給与（サラリー、オプション、手当含む）を良くしたい	52.8%
2位	やりがいを感じたい	34.9%
3位	プライベートの時間を取りやすくしたい	33.7%
4位	福利厚生を良くしたい	30.9%
5位	柔軟な働き方をしたい	29.9%

※順位回答における1位～6位のスコアを合算して集計し、上位項目を掲載

6. 【転職しない理由】日本は「転職したい会社・仕事が見つからない」、他国は「転職するほどの不満がない」が上位。アメリカは他国より「迷惑をかける」「同僚に悪い/別れたくない」の割合が高く、職場への愛着や仲間意識が強い傾向。

転職意向がない理由や転職活動を進みにくくしている要因についてもたずねました。5カ国共通して「今の会社にいれば、安定した給料がある」が30%前後で1位でした。次いで日本は「転職したい会社・仕事が見つからない」(27.8%)、アメリカ・イギリス・ドイツは「転職する程の不満がない」(それぞれ28.9%、26.9%、33.9%) 韓国は「新しい職場の人間関係やカルチャーが合わないことが不安」(29.4%)がそれぞれ2位となりました。また、アメリカでは「今の仕事が停滞したり迷惑をかけることが心配」「今の会社の同僚に悪い/同僚と別れたくない」も上位5位以内に入り、職場への愛着や仲間意識が強い様子が見取れます。

90%以上が転職経験があり、85%以上が現職に満足しているアメリカでは、転職によってより満足できる仕事や職場環境に出会い、職場への愛着や仲間意識を強めている可能性が考えられます。

Q. 現在のあなたの転職活動を進みにくくしている要因は何ですか。現在、転職する意向のない方はその理由をお答えください(順位回答:6位まで)。

※本調査全数ベース

【転職活動を進みにくくしている/転職意向のない要因】

※2か国以上で上位5位に入った項目を同じ色で塗りつぶし

	日本 (n=4,368)	アメリカ (n=1,600)	イギリス (n=960)	ドイツ (n=960)	韓国 (n=960)
1位	今の会社にいれば、安定した給料がある 30.2%	今の会社にいれば、安定した給料がある 30.5%	今の会社にいれば、安定した給料がある 31.8%	今の会社にいれば、安定した給料がある 34.2%	今の会社にいれば、安定した給料がある 29.6%
2位	転職したい会社・仕事が見つからない 27.8%	今の会社/仕事から転職する程の不満がない 28.9%	今の会社/仕事から転職する程の不満がない 26.9%	今の会社/仕事から転職する程の不満がない 33.9%	新しい職場の人間関係やカルチャーが合わないことが不安 29.4%
3位	転職できるだけのスキルや経験が自分にあるか不安 26.0% (26.04%)	転職すると、今の仕事が停滞したり迷惑をかけることが心配 24.9%	新しい仕事を覚えられるか、仕事に慣れるか不安 25.1%	今の会社の同僚に悪い/同僚と別れたくない 27.8%	転職したい会社・仕事が見つからない 28.7%
4位	転職に向けて行動するのが面倒くさい 26.0% (26.01%)	転職に向けて行動するのが面倒くさい 24.6%	面接が面倒・怖い 24.9% (24.93%)	そもそも転職しようという考え自体がない(弱い)から 26.6%	新しい仕事を覚えられるか、仕事に慣れるか不安 28.0%
5位	面接が面倒・怖い 26.0% (25.98%)	今の会社の同僚に悪い/同僚と別れたくない 24.5%	新しい職場の人間関係やカルチャーが合わないことが不安 24.9% (24.92%)	今の会社/仕事の方が出世・昇進する可能性があるから 25.6%	転職できるだけのスキルや経験が自分にあるか不安 27.7%

※順位回答における1位~6位のスコアを合算して集計し、そのスコアの上位項目を掲載

7. 【転職時に求める給与】日本は4人中3人が「現状維持の給与でも応募」で他国よりも高い割合。給与が1割程度減少しても応募する人が4割以上おりアメリカの約1.5倍。日本は転職時の給与減少に対する抵抗感が小さい傾向。

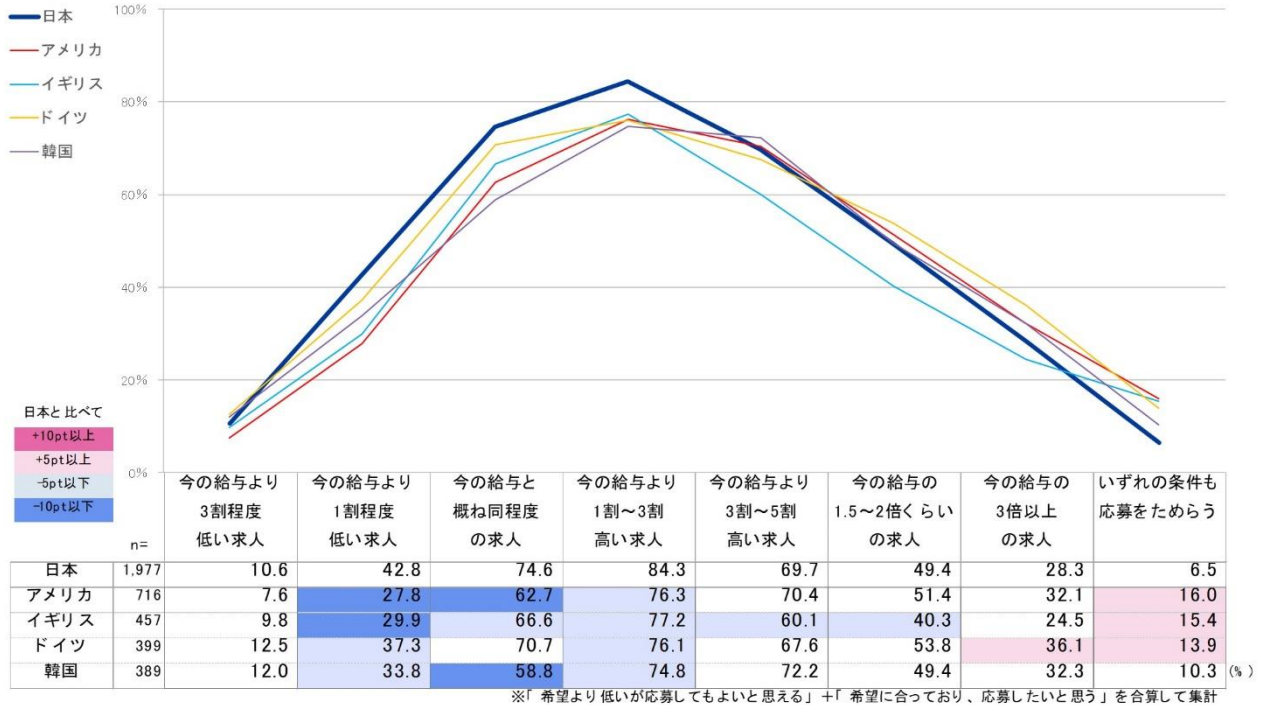
転職を検討している人を対象に、今の給与と比較してどの程度の給与の提示で応募を検討するかをたずねたところ、日本では「今の給与と概ね同程度の求人」であれば応募してもよい・したいと思える割合は74.6%で、5カ国の中で最も多い割合となりました。

また「今の給与より1割程度低い求人」でも応募する人が日本では42.8%で、これも5カ国の中で最多の割合です。割合が最も低かったアメリカの27.8%と比較すると、1.5倍以上となっています。日本は転職時の給与が変わらない、もしくは下がることに対する抵抗感が小さい傾向が明らかとなりました。

Q.転職の際の求人で、以下のそれぞれの給与が呈示されていた場合、あなたはどのように考えますか。(それぞれ1つずつ選択)
 ※各給与に対し「希望より低すぎて応募をためらう」「希望より低いが応募してもよいと思える」「希望に合っており、応募したいと思う」「希望より高すぎて応募をためらう」の4つの選択肢を提示し、「希望より低いが応募してもよいと思える」「希望に合っており、応募したいと思う」の合計のスコアをグラフ化

※転職検討者ベース

【応募してもよい・したいと思う給与の金額】



8. 【転職して良かったこと】日本は「プライベートの時間が取りやすい」が1位。「給与があがった」は5カ国共通で上位。

転職経験者に、転職する前の職場と比較して良かったことをたずねると、日本では8割以上が何らかの転職によるメリットを感じていました。日本の特徴としては、他4カ国では上位に来ていない(韓国は5位)「プライベートの時間が取りやすい」(33.9%)が1位となったことで、「仕事よりプライベート優先」の日本の仕事観の表れであると考えられます。

一方、「給与が良い/あがった」は、日本以外の4カ国で1位(それぞれ34%以上)、日本でも32.1%で2位となり、5カ国共通で上位に入りました。

Q. あなたは、転職する前の職場と比較して、転職してどんなことが良かったですか。
 これまでに複数回転職している方は、直近の転職についてお答えください（順位回答：6位まで）。

※転職経験者ベース

【転職して良かったこと】

※2か国以上で上位5位に入った項目を同じ色で塗りつぶし

	日本 (n=2,610)	アメリカ (n=1,442)	イギリス (n=890)	ドイツ (n=809)	韓国 (n=728)
1位	プライベートの時間が 取りやすい	給与が良い/あがった (サラリー、オプション、手当 含む)	給与が良い/あがった (サラリー、オプション、手当 含む)	給与が良い/あがった (サラリー、オプション、手当 含む)	給与が良い/あがった (サラリー、オプション、手当 含む)
	33.9%	37.0%	38.5%	36.4%	34.0%
2位	給与が良い/あがった (サラリー、オプション、手当 含む)	福利厚生が良い	スキルが身に付く	柔軟な働き方ができる	仕事内容が楽である (残業がない/少ない)
	32.1%	31.1%	31.2%	33.2%	33.1%
3位	人間関係が良い	経験を積むことができる	柔軟な働き方ができる	人間関係が良い	長い期間勤務し続けられる
	28.0%	29.7%	30.6%	29.8%	32.0%
4位	福利厚生が良い	会社の雰囲気、 カルチャーが良い	経験を積むことができる	経験を積むことができる	柔軟な働き方ができる
	25.3%	28.4%	30.0%	28.1%	31.7%
5位	仕事内容が楽である (残業がない/少ない)	家族が喜んでいる	やりがいを感じられる	会社の雰囲気、 カルチャーが良い	プライベートの時間が 取りやすい
	24.1%	28.0%	29.2%	27.9%	31.1%

※順位回答における1位～6位のスコアを合算して集計し、そのスコアの上位項目を掲載

	日本 (n=2,610)	アメリカ (n=1,442)	イギリス (n=890)	ドイツ (n=809)	韓国 (n=728)
特になし/あてはまるものはない	14.0%	6.5%	6.9%	9.0%	2.8%

9. 【キャリア形成に関する習慣】キャリア形成のためにかけるお金は、日本は半数以上が月に「0円」で、月収に占める割合は5カ国中最下位。最もお金をかける韓国は月収に占める割合が日本の3倍。

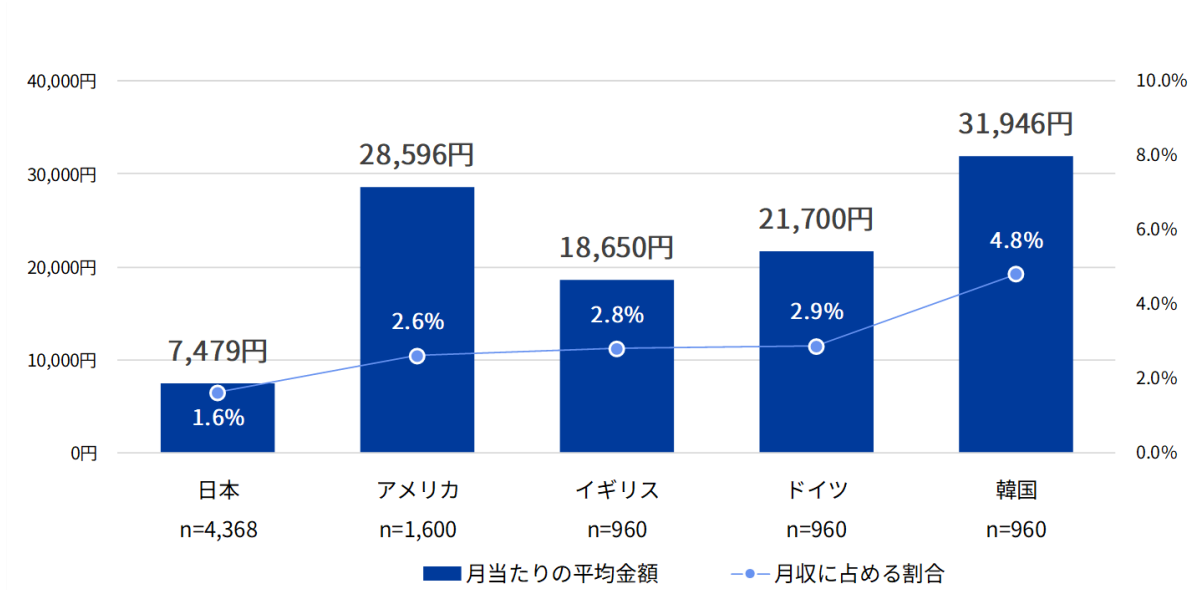
キャリア形成のためにかける1ヶ月の金額をたずねました。日本は平均7,479円で、「0円」と回答した人は半数以上の51.7%でした。「0円」と回答した割合は、アメリカ27.3%、イギリス43.8%、ドイツ29.5%、韓国9.5%で日本が最も高い割合となり、韓国は顕著に低い割合でした。

また各国の所得水準が異なることから、月収に占める割合を算出し、比較したところ、日本は1.6%と5カ国中最下位でした。月収に占める最も割合が大きかったのは韓国の4.8%で日本の3倍にあたり、平均金額を日本円に換算すると31,946円でした。

Q. あなたは、キャリア形成のために1ヶ月あたりいくらかのお金を掛けていますか。書籍購入、研修、習い事、オンライン講座、資格取得など仕事をしていく上での経験や、知識を身につけるために掛けている費用を教えてください（単数回答）。

※本調査全数ベース
 ※それぞれ2023年3月15日現在の為替で日本円に換算して算出
 ※平均年収は今回調査にて聴取したものを円換算して計算

【キャリア形成にかかる1か月あたりの金額と月収に占める割合】



※単数回答をウェイト（加重）値に置き換えて算出した平均金額と月収に占める割合を掲載

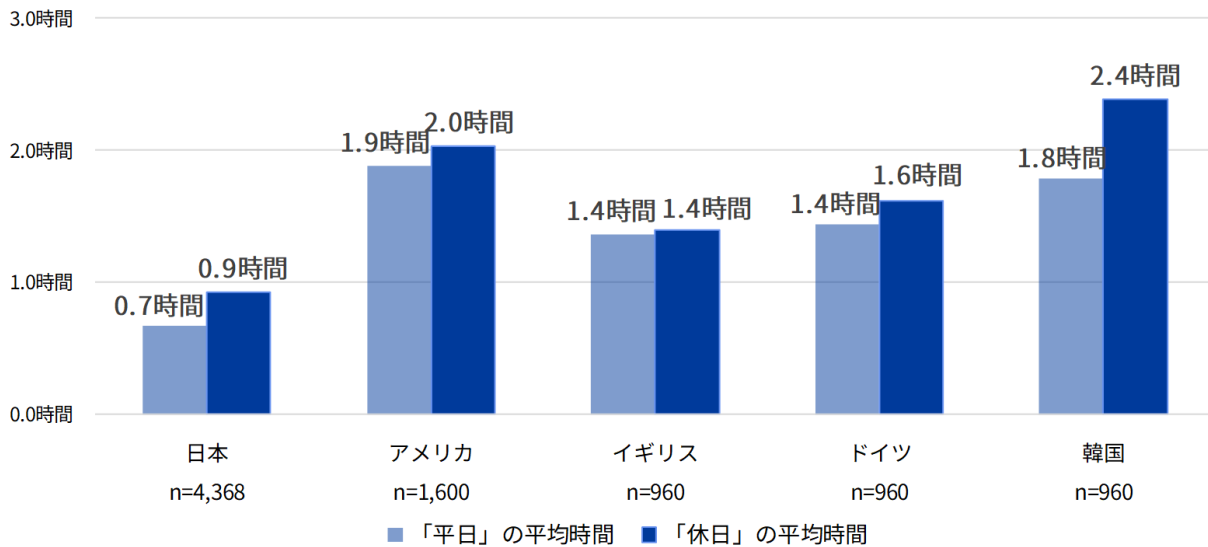
	日本 (n=4,368)	アメリカ (n=1,600)	イギリス (n=960)	ドイツ (n=960)	韓国 (n=960)
キャリア形成にかかるお金が月に「0円」の割合	51.7%	27.3%	43.8%	29.5%	9.5%

またキャリア形成に費やす時間は、日本の平均は平日 0.7 時間、休日 0.9 時間と、5 ヲ国の中で最も少ない結果でした。韓国は日本より平日は約 2.6 倍、休日は約 2.7 倍の時間をかけていて 5 ヲ国の中でも最も多い結果でした。お金と同様、日本はキャリア形成にかかる時間が最も少なく、韓国は最も大きい結果となりました。

Q. あなたは、平日（＝勤務日）／休日（＝勤務日ではない日）に、以下のことに1日あたりどのくらいの時間を使っていますか。以下のそれぞれにどのくらいの時間を使っているか、合計が24時間になるようにお答えください（数値回答）。

※本調査全数ベース

【平日および休日に勉強・キャリア形成のために使っている時間】



※それぞれ数値回答の平均値を掲載

キャリア形成のために行いたいことを具体的にたずねました。日本では、「スキルや仕事につながる学習」や「資格を取得する」などが上位に挙がり、各国でも同様の傾向が見られました。一方で、日本は「特になし／あてはまるものはない」が18.1%と、他国に比べて高い割合でした。

Q. あなたは、ご自身の今後のキャリアを考えて、何をしたいですか（順位回答：4位まで）。

※本調査対象者全数ベース

【今後のキャリアのためにしたいこと】

※2か国以上で上位5位に入った項目を同じ色で塗りつぶし

	日本 (n=4,368)	アメリカ (n=1,600)	イギリス (n=960)	ドイツ (n=960)	韓国 (n=960)
1位	スキルや仕事につながる学習 42.7%	スキルや仕事につながる学習 37.2%	将来なりたい自分を明確にし、 そのためのアクションプランを考える 37.3%	資格を取得する 38.8%	将来なりたい自分を明確にし、 そのためのアクションプランを考える 41.0%
2位	資格を取得する 37.4%	一つの企業・職場で経験を積む 36.2%	スキルや仕事につながる学習 33.5%	将来なりたい自分を明確にし、 そのためのアクションプランを考える 33.4%	スキルや仕事につながる学習 37.8%
3位	人脈を広げる 32.1%	資格を取得する 33.4%	一つの企業・職場で経験を積む 32.7%	一つの企業・職場で経験を積む 32.1%	自身の経験やスキルを振り返る 37.3%
4位	将来なりたい自分を明確にし、 そのためのアクションプランを考える 31.5%	人脈を広げる 33.2%	資格を取得する 32.5%	自身の経験やスキルを振り返る 32.1%	資格を取得する 36.5%
5位	自身の経験やスキルを振り返る 30.0%	将来なりたい自分を明確にし、 そのためのアクションプランを考える 31.4%	求人情報の検索 31.7%	人脈を広げる 31.5%	人脈を広げる 34.0%

※順位回答における1位～4位のスコアを合算して集計し、そのスコアの上位項目を掲載

	日本 (n=4,368)	アメリカ (n=1,600)	イギリス (n=960)	ドイツ (n=960)	韓国 (n=960)
特になし／あてはまるものはない	18.1%	5.0%	6.2%	8.3%	2.4%

実際にキャリア形成のために行ったことがある内容は、「一つの企業・職場で経験を積む」が日本・アメリカ・イギリスで1位、ドイツ・韓国では2位でした。転職割合が高いアメリカやイギリスでも約8割が回答しており、各国共通で一つの企業・職場で経験を積むことはキャリア形成につながると捉えられていることがわかりました。

また、「自身の経験やスキルを振り返る」「履歴書や職務経歴書の作成、更新」は、他国と比較して日本は低い割合となりました。経歴やスキルを定期的に振り返り、職務経歴書を更新するなど、将来の転職に向けて備えておくという習慣は、転職割合の低い日本ではまだあまり根付いていないと言えます。

さらに、日本は「いずれも行ったことがない」が13.8%と他国に比べて割合が高く、キャリア形成のためにお金や時間をあまり投資していないという結果と合致する傾向が見られました。

Q. あなたは、ご自身の今後のキャリアを考えて、どのようなことをしたことがありますか（それぞれ単数回答）。

※本調査対象者全数ベース

【今後のキャリアのために行った経験があること】

※2か国以上で上位5位に入った項目を同じ色で塗りつぶし

	日本 (n=4,368)	アメリカ (n=1,600)	イギリス (n=960)	ドイツ (n=960)	韓国 (n=960)
1位	一つの企業・職場で経験を積む 57.6%	一つの企業・職場で経験を積む 78.9%	一つの企業・職場で経験を積む 81.6%	資格を取得する 79.1%	自身の経験やスキルを振り返る 67.4%
2位	資格を取得する 55.9%	自身の経験やスキルを振り返る 76.0%	求人情報の検索 79.9%	一つの企業・職場で経験を積む 78.1%	一つの企業・職場で経験を積む 66.1%
3位	スキルや仕事につながる学習 52.0%	スキルや仕事につながる学習 75.6%	自身の経験やスキルを振り返る 77.6%	自身の経験やスキルを振り返る 76.2%	スキルや仕事につながる学習 62.5%
4位	求人情報の検索 48.2%	求人情報の検索 72.9%	履歴書や職務経歴書の作成、更新 76.2%	履歴書や職務経歴書の作成、更新 74.9%	資格を取得する 61.6%
5位	自身の経験やスキルを振り返る 45.8%	履歴書や職務経歴書の作成、更新 71.6%	資格を取得する 74.9%	求人情報の検索 73.6%	求人情報の検索 59.8%

※「やったことがある」のスコアを掲載

	日本 (n=4,368)	アメリカ (n=1,600)	イギリス (n=960)	ドイツ (n=960)	韓国 (n=960)
いずれも行っていない	13.8%	1.4%	1.4%	1.4%	1.8%

■ 「転職」に関する5カ国比較調査概要

- 調査主体：Indeed Japan株式会社
- 調査対象：日本、アメリカ、イギリス、ドイツ、韓国で現在就業中の正社員（無期雇用・フルタイム就業者）20代～50代男女
日本4,368名、アメリカ1,600名、イギリス・ドイツ・韓国 各960名（計8,848名）
- 割付方法：調査対象国別に、性別×年代×居住エリアにて割付してサンプルを回収
性別：2区分（男性、女性）
年代：4区分（20代、30代、40代、50代）
居住エリア：日本：7区分（北海道、東北、関東、中部、近畿、中国・四国、九州・沖縄）
アメリカ：4区分（東部、中西部、南部、西部）
イギリス：4区分（イングランド、ウェールズ、北アイルランド、スコットランド）
ドイツ：4区分（北部、東部、西部、南部）
韓国：3区分（特別市、広域市、道）

※居住エリアについては、各国で主に使われているエリア区分を採用

※各国ごとに、均等割付でサンプル回収。一部割付で、人口分布状況を考慮し回収サンプル数を調整

- 集計：性別、年代、エリアを考慮しウェイトバック集計を各国ごとに実施
日本：国勢調査から算出した性年代×エリアごとの「正社員」の人口構成比に基づいてウェイトバック集計を実施
他4ヵ国：OECDデータから算出した各国の性別ごとの「フルタイム就業者」の人口構成比に基づいてウェイトバック集計を実施
- 調査方法：インターネット調査
- 調査期間：日本 2023年3月8日（水）～3月10日（金）
アメリカ 2023年3月22日（水）～3月31日（金）
イギリス 2023年3月22日（水）～4月2日（日）
ドイツ 2023年3月23日（木）～3月30日（木）
韓国 2023年3月24日（金）～3月31日（金）

※構成比（％）は小数第2位以下を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

Indeed（インディード）について

Indeed は、最も多くの人々が仕事を見つけている世界 No.1 求人検索エンジン*です。現在 60 ヵ国以上、28 の言語でサービスを展開し、求職者は何百万もの求人情報を検索することができます。300 万以上の企業が Indeed を利用して従業員を見つけ、採用しています。月間 3 億人以上 のユーザーが Indeed を利用**し、求人検索や履歴書の登録、企業の情報検索を行っています。詳細は <https://jp.indeed.com> をご覧ください。

*出典：Comscore 2022 年 9 月総訪問数

**出典：Indeed 社内データ 2022 年 4～9 月